

平成26年度の発掘調査成果

いせきワールド in 前橋 2015

元総社小学校

総社神社

掘立柱建物跡が見つかった元総社蒼海(95)を
北側から望みます。



私たちの暮らす地面の下には、昔の遺跡が埋もれていて、歴史を解明するために発掘調査を行います。発掘調査は遺跡の保存を図るために行われるほか、道路や大きな建物をつくるにあたり、遺跡が壊されてしまう前に調査をする場合もあります。

前橋市の元総社町は古代の群馬県の役所にあたる上野国府（こうずけこくふ）があったと考えられている場所です。前橋市教育委員会では、平成23年度から、中心施設などを探す調査を続けています。また、今年度も、総社・元総社地区で行われている区画整理事業に先立って、元総社蒼海遺跡群の発掘調査を行いました。

今年度の調査では、古代の役所に関係すると考えられる建物の跡が4地点で見つかりました。

平成26年度の発掘調査

今年度は、前橋市南西部の元総社町や川曲町、南部の亀里町ほか、北部の五代町などで発掘調査を行いました。調査によって縄文時代の集落や、奈良時代から平安時代にかけての群馬県を中心地域の様相、また古墳時代初頭の水田開発を行った人々の生活の一端をうかがい知ることができました。

① 元総社蒼海(91) 仏像が見つかった住居跡



このように出土しました



この周辺では38軒の竪穴住居跡が見つかりました。住居を埋めていた土の層や、土器を調べた結果、5世紀(古墳時代)から11世紀(平安時代)にかけて人々が暮らしていたことが分かりました。また、住居跡のひとつから、左の写真の仏像が出土し、すでにこの頃から一般の人々が仏さまを敬っていたことが分かります。



表面をきれいにすると、金箔が貼ってあることが分かりました

② 上野国府調査 元総社小学校校庭



昨年度に続き元総社小学校の校庭を発掘しました。校庭の北側あたりを発掘したところ、奈良時代頃に建てられた建物の跡と、同じ頃に掘られたと考えられる溝が見つかりました。この建物の跡は、役所か身分の高い人物の館の跡ではないかと考えられます。

平安時代の井戸から大量の土器が見つかりました。一つの井戸に、おわんなどがまとまって埋められ、割れていないものも多くありました。宴会で使ったものを捨てたのかもしれませんが。



① 元総社蒼海(95) 大量の土器



① 元総社蒼海(95) 掘立柱建物跡

奈良時代頃と考えられる2棟の大型建物の柱の穴が見つかりました。掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)と呼ばれ、この時代では、役所やお寺など特別な建物と考えられています。四角く並んだ柱の列が重なっているのは、建物があつた時期が異なるためです。



③ 五代深堀 I 遺跡No.2

赤城山の麓の緩やかな傾斜地に営まれた、環状に住居や土坑(どこう：地面に掘った穴)が並ぶ縄文時代中頃の集落跡です。住居や土坑からは、いろいろな文様を持った土器が、たくさん見つかりました。



④ 南部拠点遺跡群No.11



前橋市南部に広がる平坦な水田地帯は、古墳時代の初めから水田がつくられてきました。小川に沿って点々と見つかった住居は、周りを溝で囲われていました。古墳時代の初め頃に低地に建てられた住居の特徴です。この地域で最初に水田開発を行った人たちは、この住居で暮らしていました。

⑤ 川曲地蔵前遺跡No.3

平安時代の初めに掘られたと思われる水路の跡(川曲大溝)で、幅4m、深さ2mあります。底から、「物」の文字が書かれた土器や動物の骨が見つかり、なにか儀式が行われていたことが考えられます。



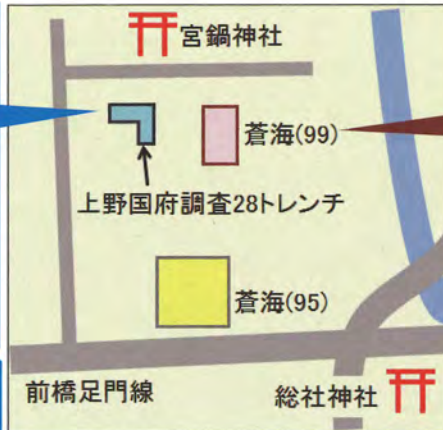
平成26年度 埋蔵文化財発掘調査一覧		
遺跡名	所在地	主な時代
①元総社蒼海遺跡群	元総社町・総社町総社	縄文・古墳・奈良・平安時代、中世
②推定上野国府跡	元総社町	古墳・奈良・平安時代、中世
③五代深堀 I 遺跡 No. 2	五代町	縄文・奈良・平安時代
④南部拠点地区遺跡群 No. 10・11	鶴光路町、亀里町、新堀町	古墳・平安時代
⑤川曲地蔵前遺跡 No. 3	川曲町	平安時代、中世



とくべつ たてもの あと はっけん 特別な建物の跡を発見か？



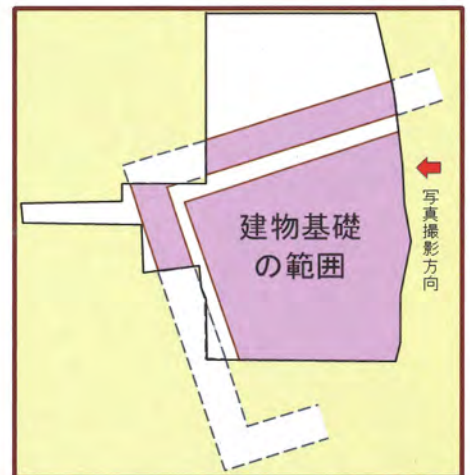
上野国府調査28トレンチの建物跡



上野国府調査28トレンチの版築



元総社蒼海(99)の建物跡の版築



元総社蒼海(99)の建物跡



じょうぶに固める
ころ！

元総社町に昔からある宮鍋神社の南側で、2つの建物の跡が見つかりました。この建物は2棟とも「版築」（はんちく）で建物の基礎が造られていました。上野国府調査28トレンチで見つかった建物は、基礎が四角い枠のような形をしており、元総社蒼海遺跡群（99）で見つかった建物は四角い基礎のまわりをとりかこむように、四角い枠のような形の基礎がまわっていたと考えられます。

版築で基礎をしっかりとつくる建物は、古代のお寺や役所の建物に多く見られることから、何か特別な建物があったことがうかがえます。

はんちく 「版築」って何？

「版築」とは、土留板（どとめいた）の間や、一度掘った穴の中に少しずつ土を入れては突き固め、これを何度も繰り返し、何枚もの硬く締まった薄い層を盛り上げていく建築工法のひとつです。とても強固に仕上がることから、コンクリートなどが無い古代では、大きな建物の基礎や基壇をつくる時に用いられました。

☆☆ 問い合わせ先 ☆☆

平成26年度の発掘調査成果

い・せ・きワールド in 前橋2015

前橋市教育委員会事務局文化財保護課

平成27年3月発行

住 所 前橋市総社町三丁目11-4

電 話 027-280-6511

FAX 027-251-1700

Eメール bunkazai@city.maebashi.gunma.jp